

編輯室の内外

残暑の酷熱釜中に在るの思ひあらしめた
も雷雨一過して漸く新涼郊墟に入り燈火觀
しむべく簡編卷舒すべきの候となつた。此
秋景に接して人生を觀しては公となり相と
なつて潭々府中に居る者、馬前の卒となり
鞭背蟲蛆を生ずる者、學んで思はざるも尙
は紙上に譽を得る者、思ふて擧ばざるも尙
史に名を貽さんと思はる者、平々凡々と
して職の乏しきに瀕する者、身命を賭して公
益に盡すも斷罪のヴィクチムとなる者混然
として運命の支配を受けねばならぬなどと
迷想しつゝ漸く編輯の日數を経過し致に十
月號を豫定期日に愛讀者各位の机邊に呈す
る事を得た。此際玉稿の堆きを編輯卓上に
眺めて轉た歎喜の感に堪えざる次第である
本會の事業としての參宮國道バス視察旅
行も愈々實行の段取となつた。一昨年の東
海道視察が實行を見ることを得ざりしの遺
憾は取り返されて土木國策の實現に資する
所の大なるべきことを思はせらる。偏りせ
ざらんことである。

實話標語の懸賞募集を發表したのは去る
六月で應募期間の三ヶ月は早くも經過し滿
期日の八月末日に至つた。一般よりは實話四
二、標語一〇五二〇小兒兒童よりは實話
一六四、標語九八六を算する。此數字的結果
から見ると小兒兒童に道路觀念の乏しさ

を證するに足ると思はざるを得ない。併し
其の實話なり標語なりが複式方法で慎重審
査を施されつゝあると仄聞する其の結果や如
何、應募者も編輯子も刮目して其の公表を
待つのみである。

滿洲國の建設夫は日本生命線の守備、
東洋平和の障壁として我が日本が産婆とな
り保母となりて王道樂土の彼岸へと育成さ
ること茲に五星霜を経た。歐米各國より
は野望と見られ、侵略と疑はれ、武力主義
の實行と族まれつゝも背に腹は替へられぬ
敢然、斷然、猛然として我國は猛進した。
其費す處の國帑は數十億圓を以て算せらる
ゝ想像せらるゝが尊き人命を犠牲とした
るの數は實に四千五百餘で戰傷病者を合す
れば實に十九萬六千六十五名に達すと稱せ
らる其の遺家族の蒙りたる苦痛、一般國民
が受けたる損失の如何を思ふときには満洲の
爲めに提供したる我國民の犠牲の大にして
深刻なるを痛感せざるを得ない。銃前立
つ將兵も銃後立在る國民も犠牲の眞價を認
識しなければならぬ次第である。

府縣道の指定は大正十五年九月一日内務
大臣から訓令第八三二號を以て公示せられた
が其後時勢の推移に伴れ變更を要する事
情に立ち至つたので内務省に於ては慎重審
議を遂げ其の路線を全體的に決定する處があ
つたとの事である。從つて不日官報を以て公示せらるゝであらう。

電力國營國策問題は賴母木遷相派と電協

側とあゝ云へばこう言ふ兩者の言ひ分は
夫れゝ相當の理由がある。或論者は國鐵
を先例として論ぜるも國鐵は、贅否兩派が
觀點を異にすれば互に援用し得るものであ
る。陸軍方面で有時の際國防上の見地から
國營を保護するが如く見るゝが之れに對
しては國防上絶對必要的場合は生命財產電
力供給等總てのものを何時でも投げ出す覺
悟と準備があると言へば夫れまではある
まいが、國有國營には何人も反対はないが
民有國營は化學的でなく物理的結合
ではと二の足を踏む實際家や學者の存する
ことは故なきものではない而かも有時の際
に於て需要電量を豫想して之が準備設備
を平時に整備することと供給電料の低下と
は矛盾なきや否や三考も四考も必要ではな
からうか。(逃)

印 刷 者	奈 良 直	定 價 一 部	五 十 錢
發 行 所	東京市麪町區外 櫻田町一番地内務省內	編 輯 者	小 島 效

東京市世田ヶ谷區北澤五丁目七五二
東京市小石川區諏訪町五六
電話銀座(57)四二七